

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙・「みらい」
NO. 3693
16年10月4日(火)
・Fax 095-828-1953

徳乱言 巧言行

おはようございます。

春の甲子園の予選となる秋の高校野球の県大会で、長崎日大、佐世保工業、長崎東、島原農業が勝ち残り、今週の土日で準決勝、決勝が行われ上位二校が九州大会への切符を手にする。今年は常勝の海星や長崎商業、創成館が早々と負けて大混戦であるが、ベスト四に公立が三校も残るとは、さすが地方の県大会だ。

野球ではプロ野球もシーズ



ビッグN野球場

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

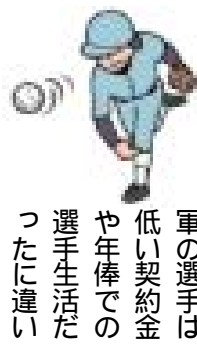
期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。めざせ、均等待遇。なくそう差別！ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

ンが終了し、戦前の予想に反し、広島と日ハムが勝ち、なんとなく話題が多かった。個人的にいえは今年の野球の最大の話題はアメリカ大リーグのイチロー選手の四二五七本の安打世界記録達成(六月)だった。日米通算ということ、アメリカでは評価が低いのが残念だ。

だが、こうした記録に残るプロ野球選手はわずかだ。今年もシーズン終了とともに球界には「戦力外通告」という

解雇の嵐が吹き荒れている。いずれも二〇代や三〇代の若者だ。

一億や二億という高額



軍の選手は低い契約金や年俸での選手生活だ。努力もない。努力しても芽が出ない場合、結果主義のプロスポーツ界の厳しさを感じる。若くしてプロ野球から離れる若者の未来はどうなるのだろうか。

今年の夏の全国大会の参加高校数は三八二四校だった。一チームに三年生が仮に一〇人の選手がいるとして、総人数は三万八千人だ。うちプロに行ける人はよくて五〇人程度。比率で〇・〇一%に過ぎない。しかもそこで成功する人はそのまた一割にもならない。いくら頑張っても圧倒的多数の九九・九九%の人には夢は実らないのだ。

こうしたスポーツの世界の勝者を例に、「夢はかなつ」と語る人がいる。ほかならぬ安倍首相である。臨時国会が九月二六日から始まり、首相が所信表明を行った。キーワードは「未来」と「世界」で

ある。世界の真ん中で輝く日本をテーマに、夢はかなつと演説した。スポーツという競争原理と、現実社会の競争原理を混同させ、巧みに国民を誘導する論理のすりかえだ。

そのなかで注目したのは、一億総活躍の働き方改革で、同一労働同一賃金の実現と、非正規の掃をと概を飛ばした。聞けばいいことだらけで、日本の働く人の未来はバラ色に見える。そのための法改正もすぐ行うといっているわけで、事実ならばすぐにやっしてほしいと思う。

この国会演説を聞きながら、なにかどこかで聞いた記憶があると思っただが、民営化後の郵政改革担当大臣の「十万人の正社員化」というアドバルーンである。結局、担当大臣や社長交代があり、これは実現していない。今回の安倍演説とどこが違うのかと思うのだが...

日本労働弁護団の夏の合宿では、安倍の規制緩和は、同一労働同一賃金を看板に、労政審という手間がかかる法改正制度より、その仕組みをなくし、一気の「規制破壊」がねらいという。この秋には解雇自由という究極の攻撃もかかることも警告されていた。

日本の労働法は憲法により、労働者保護精神があり、最低の基本を保障している。しかし安倍の規制緩和は競争主義と自由契約のもと、この保護法の精神を骨抜きにするものだ。



例えば彼が目指す残業代ゼロ法など、それがそれである。結論は競走に勝つものだけが生き残れる仕組みだ。しかし現実社会は生涯を通して、永遠に勝ち続けることなど不可能なのだ。



私たちの職場でも、この十月以降採用の契約社員の五年後の無期転換のとき、スキルB者は契約更新をするという条項が適用され、スキルCの人は契約の更新はなくなる。会社から見て勤務成績不良者や、意に反する人はC評価にさすれば、自動的に解雇できる仕組みとなる。労働契約法十八条で、五年経過者の無期転換という「労働者保護」の裏で、「労働者権利ゼロ」の自動解雇がまかり通るのだ。

日本郵便は民営化されたが、国が最大の株主の会社である。いわば安倍首相が株主の代表

なのだが、こうした非正規差別や解雇自由がまかり通る現実の会社実態を、「ご存じないらしい。言葉だけで、世界一働きやすい国づくりを語っても、実感がともなう社会や会社ができないければ、大演説は空言に終わる。

安倍首相が有言実行ならば、まず足元の日本郵便で二十万人の非正規労働者をなくし、最低年収四百六十万円、退職金、年金つきの正社員にすべきである。また自分がトツプの公務職場の百万人の非正規労働者を本務化すべきである。

論語にいう「巧言乱徳」である。孔子は「巧みに繕った言葉は、人の心を惑わして、徳を乱す」と、衛の国の国主である靈公に諭す。紀元前五百年ころの話だが、国のトツプが言葉だけでなく、中身を伴った政策を行わなければ、国は成り立たないといつて、孔子はこの国を去った。

言葉は飾りではなく、言行一致が必要だし、またそれこそ政治家の命でもある。どちらにも大事にされたい。そして「百の言葉より一の結果」と自分自身が大き得を切ったではないか。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-山本, 2集-向井, 3集-山田, 郵便-高田, ゆうちよ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。